

(別紙様式4)

職業実践専門課程の基本情報について

(平成29年度)

学 校 名		設置認可年月日	校 長 名		所 在 地	
専門学校北日本 自動車大学校		昭和59年11月30日	齋木 修二		〒079-1371 北海道芦別市上芦別町118番地132 (電話) 0124-22-3811	
設 置 者 名		設立認可年月日	代 表 者 名		所 在 地	
学校法人 土岐学園		昭和39年2月10日	齋木 寛治		〒509-5117 岐阜県土岐市肥田浅野朝日町2-7 (電話) 0572-55-8511	
目 的	実社会に適した、自動車整備士としての専門の知識技能を授けると共に、一般教養を高めて健全なる国民の育成のため、学校教育法に基づき専修学校教育を行うことを目的とする。					
分野	課程名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	専門課程	自動車整備科 二級整備士コース	2年(昼)	1,850時間	平成13年3月8日 文部科学大臣告示第30号	
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		748時間	時間	時間	1259単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数
80人		34人		7人	人	7人
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有) 無 ■成績評価の基準・方法について 成績評価規程による5段階及び、 GP、GPA	
長期休み	■春 季：3月20日～4月7日 ■夏 季：7月28日～8月20日 ■冬 季：12月23日～1月17日			卒業・進級条件	学則第14条第1項 認定基準による。 学科、年間総得点数の60%以上、実技 70%以上、出席90%以上	
学生指導	■クラス担任制 (有) 無 ■長期欠席者への指導等の対応 三者面談、家庭訪問、指導記録			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア協議会 ■サークル活動 (有) 無	
就職等の状況	■主な就職先、業界 自動車ディーラーなど自動車業界 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合※2 100% ■その他(任意) (平成28年度卒業者に関する平成29年2月時点の 情報)			主な資格・検定	二級ガソリン自動車整備士、二 級ジーゼル自動車整備士、二級 二輪自動車整備士、二級自動車 シヤシ整備士、	

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 0名 ■中退率 0 % 平成28年4月21日在学者 34名（平成28年4月入学者を含む） 平成29年3月31日在学者 34名（平成29年3月卒業生を含む）※2名は一級コースから転籍</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>■中退防止のための取組 担任、寮監による面談・指導、保護者を交えての三者面談、聞き取り調査、指導記録</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL:http://www.a-tec.jp</p>

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

国又は地域の産業振興の方向性を見極めながら、実務に必要な最新の知識・技術・技能を習得するために必要な情報の把握・分析を行なう。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 29 年 4 月 1 日現在

名 前	所 属
高橋 克嘉	芦別市総務部企画課長
坂井 大樹	(株) 芦別モータース 代表取締役
中山 透	東和自動車整備工業 (株) 代表取締役社長
齋木 修二	校長
山田 恵一	副校長
斉藤 敏幸	教頭
落合 義信	事務長

(開催日時)

第 1 回 平成 28 年 12 月 19 日 17:30～19:00

第 2 回 平成 29 年 03 月 22 日 17:30～19:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

自動車整備の実務に関する接客対応、実際の故障や不具合の確認、実際に使用されている経年変化を伴った車両整備や地域の特性(産炭地特有の車両、積雪地域特有の不具合)による整備内容や技術、最新スキャンツールの実践技術を身につける。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
応用実習Ⅱ 総合	エンジン、シャシ、電装の総合的な実習を通じスキャンツールの取扱いなども習得する。	(株) 芦別モータース

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教員研修規定に基づき、研修委員会が研修プログラムを企画し、連携企業による職員研修を実施する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 29 年 4 月 1 日現在

名 前	所 属
大下 睦夫	芦別商工会議所 専務理事
林 秀樹	空知交通 (株) 代表取締役
西田 良史	カーショップ・ニシダ 代表
木田 みどり	病院職員
齋木 修二	校長
山田 恵一	副校長
斉藤 敏幸	教頭
落合 義信	事務長

(学校関係者評価結果の公表方法)

[URL:http://www.a-tec.jp/report/k_assessment.pdf](http://www.a-tec.jp/report/k_assessment.pdf)

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL:http://www.a-tec.jp/report/

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科二級整備士コース 1年次) 平成29年度										No.1
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			詩吟	整備士に必要な明るく元気に声を出せること。また礼儀、服装など、節度ある態度が身に付くことを目的として行います。	1前後	31		○		
○			英語	自動車サービスマンは、「国際人」としても通用するように、基礎知識を身に付けることを主目的とします。	1前	8		○		
○			自動車総論	職場、中堅従業員の心得、効果的な仕事の進め方などを理解して、将来中堅従業員としての仕事とその役割を理解する。	1前	10		○		
○			ガソリンエンジン構造	ガソリン・エンジンの本体、潤滑、冷却、燃料、吸排気装置の構造や作動、名称などを習得し2級自動車整備士資格を目指す。	1前後	63		○		
○			シャシ構造	自動車の動力伝達、走行、制動、緩衝、かじ取り、シャシ電装部品の構造や作動、名称などを習得し2級自動車整備士資格取得を目指す	1前後	66		○		
○			電装品構造	自動車のエンジンに関わる電装品を中心に各装置の構造、作動、機能、保守、整備を学び自動車整備に必要な知識、技術を学びます。	1前後	50		○		
○			ディーゼルエンジン構造	ディーゼル・エンジンの燃焼・作動を理解し各装置の構造、名称などを習得し2級自動車整備士資格取得を目指す。	1前後	39		○		
○			内燃機関	内燃機関の理論サイクルや各種燃料の性状と規格、潤滑剤、作動油等の特徴を習得し、近年の新製品、新規格なども修得する。	1後	8		○		
○			自動車製図	自動車製図の基本を習得し、図面を作成する目的、更はその図面に示す情報が利用できるようにする。	1後	7		○		
小計					9	科目	282	単位時間 (単位)	

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科二級整備士コース 1 年次) 平成 29 年度										No.2
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			自動車数学	国家試験によく出題される計算問題を解く上で、必要となる自動車工学の基礎的な、原理、法則、公式を習得します。	1 前後	40		○		
○			自動車材料	2 級自動車整備士資格取得を主目的としながらも、近年の新素材やリサイクルを容易にする材料やなども合わせて修得します。	1 後	7		○		
○			二輪車構造	二輪車の構造・機能・特性並びに整備方法を修得し、2 年次の二輪車実習に結びつく基礎知識、基礎技術を修得する。	1 後	13		○		
○			整備機器	整備用機器の名称と構造及び取扱い方法や保守管理などについて学びます。	1 後	16		○		
○			自動車法規	最新の関係法令等及び通達や、法令を理解し自動車整備業界に携われるようし、2 級自動車整備士資格取得を主目的とします。	1 前後	24		○		
○			基本実習 I 手仕上げ	丸棒から六角ナットを製作する各工程に使用する工具や測定機器、卓上ボール盤、旋盤などの知識や使用方法及び注意事項の修得	1 前	30				○
○			基本実習 I 基礎整備	手持ち工具、特殊工具の名称、使用方法及びネジに関する基礎知識、ガレージ・ジャッキ、リジット・ラック、及び 2 柱リフト、油圧リフトの使用方法、安全作業を修得	1 前	30				○
○			基本実習 I 基本測定	一般測定機器の名称、構造、原理、取扱い DMM の作製、半田付けの技術及び半導体の知識 DMM を使用して点検方法修得	1 前	30				○
○			基本実習 I エンジン	ガソリンエンジンの分解・組み付け、始動を通じて、工具の選択や使用方法並びにエンジン部品各部の測定バルブ・タイミング・ダイヤグラムを修得	1 前	85				○
小計						9	科目	275	単位時間 (単位)

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科二級整備士コース 1 年次) 平成 29 年度										No.3
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			基本実習Ⅰ シャシ	MTの脱着作業及びクラッチの分解、組み付け、点検及びMT分解、点検、組み付け方法および構造、作動の知識を修得	1 前	85				○
○			基本実習Ⅰ 電装	点火、始動、充電装置の各構成部品及び回路スター・モータ、オルタネータ、IGコイル、イグナイタ、スパークプラグの点検、測定の方法を修得	1 前	85				○
○			基本実習Ⅱ エンジン	実車からエンジンの脱着 6 気筒ガソリンエンジンの分解・組付・点検および冷却、潤滑装置の構造、作動、6 気筒のバルブタイミング・ダイヤグラム	1 後	80				○
○			基本実習Ⅱ シャシⅠ	デフアルシヤル、ペラ・シャフト、エバーサルジョイント、スアリンクの構造、分解、組付、点検及びホイール・アライメント基礎知識、測定	1 後	80				○
○			基本実習Ⅱ シャシⅡ	制動装置全般、ホイール・ハブ分解、組付、点検、調整及びタイヤ・ホイールの基礎知識と脱着及びホイール・バランス調整	1 後	80				○
○			基本実習Ⅲ エンジン	電子制御式燃料噴射装置の各種センサー、アクチュエータの種類、構造及び各種制御について修得	1 後	28				○
○			基本実習Ⅲ シャシ	ATの分解・組付けを通じて構造を修得 油圧制御および電子制御ATの各種点検方法を理解して故障探求方法を修得	1 後	28				○
○			基本実習Ⅲ 電装	サーキット・テスタおよび各種測定機器を使用し、電気回路を理解して電圧、電流、抵抗の測定技術を修得	1 後	28				○
小計										
合計										
			8	科目	494 単位時間 (単位)					
			26	科目	1051 単位時間 (単位)					

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科二級整備士コース 2 年次) 平成 29 年度										No.1
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			詩吟	整備士に必要な明るく元気に声を出せること。また礼儀、服装など、節度ある態度が身に付くことを目的として行います。	2 前後	28		○		
○			自動車環境	自動車から排出される有害物質、騒音、代替エネルギーを利用した最先端技術を駆使した自動車、エンジンの仕組み・システム	2 前後	13		○		
○			自動車数学	国家試験によく出題される問題で、必要となる自動車工学の基礎的な、原理、法則、公式を習得します。	2 前後	21		○		
○			電子工学	自動車に使用されている電子部品の種類、構造、機能及び故障探求に使用するテスターの使用方法。また自動車の電子制御の基礎から応用	2 前後	15		○		
○			材料力学	国家試験によく出題される計算問題を解く上で、必要となる自動車工学の基礎的な、原理、法則、公式を習得します。	2 前	10		○		
○			教育指導	職場で働くリーダーとして必要な基本知識・教養を身につけ、職場のリーダーとしての仕事と役割を理解する。	2 前後	16		○		
○			自動車 新機構	近年開発された新技術・新機構、次世代の自動車の専門的で先進的な技術知識	2 後	16		○		
○			ガソリン エンジン整備	ガソリン・エンジンに関する点検、整備の方法、ならびに不良であった場合の修理・交換の要領(点検、分解、組付けを含む)	2 前後	31		○		
○			シャシ整備	シャシ部品に関する点検、整備の方法、ならびに不良であった場合の修理・交換の要領(点検、分解、組付けを含む)	2 前後	31		○		
小計					9 科目	181 単位時間 (単位)				

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科二級整備士コース 2年次) 平成29年度										No.2
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			ジーゼルエンジン整備	ジーゼルエンジンに関する点検、整備の方法、ならびに不良であった場合の修理・交換の要領がリソ・エンジンとの相違点を考察する	2前後	29		○		
○			電装整備	エンジンに関わる電装品について、電気工学の基礎理論(電気・電子理論)と関連付けながら、各装置の構造、点検整備	2前後	13		○		
○			故障探求	自動車の故障の種類や原因、効率的な診断方法に対する考え方	2後	20		○		
○			二級演習	幅広く二級自動車整備士試験に出題されそうな問題を掘り起こし、再度学ぶことにより、全員二級自動車整備士資格取得を目指す	2後	81		○		
○			整備機器	整備用機器の名称と構造及び取扱い方法や保守管理などについて学びます。	2前	18		○		
○			自動車検査	「道路運送車両法の保安基準」に定める保安上または公害防止上、その他の環境保全上の技術基準で、自動車の検査業務を行う際に基準判定が出来るようにします。	2前後	24		○		
○			特殊機構 二輪	二輪車の基本的な構造を学習し、点検、調整を行います。	2前	35				○
○			特殊機構 エンジン	ロータリー・エンジン、LPG・エンジン、吸排気装置の構造作動を学習し、各部件の整備作業(分解、組立、点検)を行います。	2前	35				○
○			特殊機構 空調	エア・コンディショナー、ヒーターの構造・作動を学習し、構成部品の分解・点検作業を行う。	2前	35				○
小計					9	科目	290	単位時間 (単位)

授業科目等の概要

(工業専門課程 自動車整備科二級整備士コース 2 年次) 平成 29 年度										No.3
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			応用実習Ⅰ エンジン	各種ガソリン・エンジンの分解・組み付けを通じて、より一層理解を深めるとともに、エンジン部品各部の点検・測定・良否判定を行います。	2 前	80			○	
○			応用実習Ⅰ シャシ	大型車に使われているブレーキ装置、サスペンションについて、小型車との違いを把握し理解を深める。	2 前	80			○	
○			応用実習Ⅰ 電装	シャシ電装の点検を通して、電気系統に対する理解と故障探求を身に付ける エア・バッグ装置、カー・ナビゲーション・システムの構造を理解させる。	2 前	80			○	
○			応用実習Ⅱ ジーゼル	ジーゼル・エンジン本体及びノズル、噴射ポンプ、グロー・プラグについて構造・作動とガソリン・エンジンとの違いなどを学習し、分解、点検、組付け・点検を行う。	2 後	70			○	
○			応用実習Ⅱ 検査	自動車検査作業の流れを、検査機器を通して理解し、機器の取扱いや、記録簿への記載方法を学び、検査の良否判断能力をつける。	2 後	70			○	
○			応用実習Ⅱ 総合	エンジン、シャシ、電装の総合的な実習を通じスキャンツールの取扱いなども習得する。	2 後	70			○	
○			フロントマン 実習	フロント業務は、お客様と接する最前線であり、整備事業発展のための中心的役割を担っていることを認識させる。	2 後	35			○	
小計				6 科目		485 単位時間 (単位)				
合計				24 科目		956 単位時間 (単位)				